

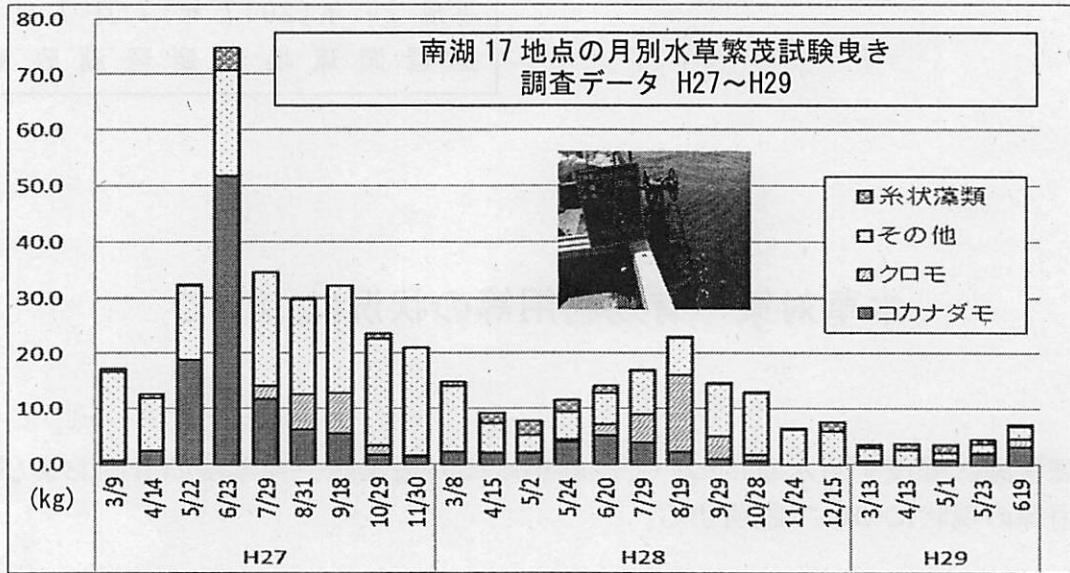
琵琶湖環境対策特別委員会資料  
平成 29 年(2017 年)7 月 7 日(金)  
琵琶湖環境部 琵琶湖政策課

## 水草対策・有効利用等の状況について

琵琶湖に繁茂する水草について、昨年度の対策実績、今年度の計画および有効利用等の現状について説明する。

# 1 現在の繁茂状況

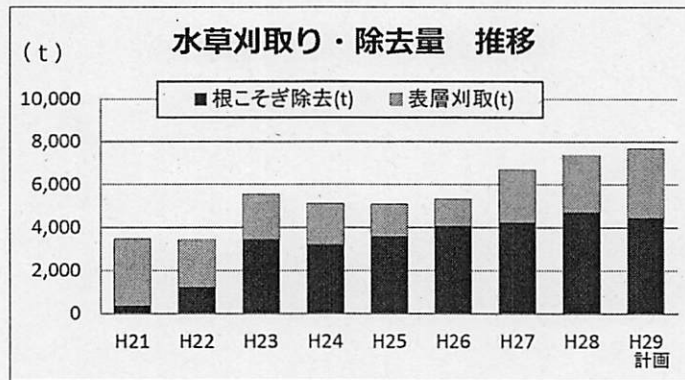
南湖17地点で月1回実施している水草繁茂試験曳き調査の結果、今年度6月時点での水草の繁茂状況は、前年度と比べて少ない状況となっている。



# 2 水草対策事業の昨年度実績と今年度計画

## (1) 水草刈取り・除去

水草対策については、悪臭や船舶の航行障害等軽減のための水草表層刈取りや、漁場環境改善など生態系保全対策の水草根こそぎ除去などの予算を確保しており、関係機関が連携して取り組んでいる。



平成28年度 実績

種類	刈取り・除去量 (t)	事業費 (千円)	備考
根こそぎ	4,699	158,696	
表層	2,692	125,489	※うち北湖 230t
その他		9,067	
計	7,391	293,252	

平成29年度 計画

種類	刈取り・除去量 (t)	事業費 (千円)	備考
根こそぎ	4,451	161,265	
表層	3,232	129,740	※うち北湖 209t
その他		19,745	
計	7,683	310,750	

(2) **新** 体験施設等の水草除去支援事業

平成 29 年度からは、マリーナや体験施設等が実施する琵琶湖での水草除去に対して支援を行う。

概 要：水草の除去費用、有効利用や処分にかかる費用の 1 / 2 を補助

予 算 額：6,000 千円

応募状況：6/30 時点で 15 団体からの応募があり、現在も募集中。



### 3 有効利用の取組み

#### (1) 水草たい肥の無料配布

刈取り除去した水草は、近江八幡市津田干拓地にて「たい肥化」を行い、一般の方に無料配布することで有効利用を図る。

H28 年実績：配布量 648 m<sup>3</sup>      H29 計画 配布量 350 m<sup>3</sup>

#### (2) 水草等対策技術開発支援事業

平成 28 年度から、企業等が実施する新たな水草有効利用方法など技術開発への支援を行っています。平成 29 年度は、新たに侵略的外来水生植物の対策も補助対象に加え助成を行う。

概要：企業等が実施する技術開発に係る費用の 2 分の 1 を補助  
 予算額：10,000 千円 (4/17～6/2 募集 応募 6 団体 現在審査中)

## 企業等が実施する、琵琶湖の 水草等の対策技術開発

**を支援します。**

近年琵琶湖で生態系などに悪影響をおよぼす水草等の対策について、効率的な除去方法や、繁茂抑制方法など、新たな水草等対策技術開発を支援します。

---

### 支援する水草等対策技術開発

- 沈水植物等の水草（侵略的外来水生植物を除く）
  - ◇繁茂抑制や、除去、有効利用に関する新たな技術開発（実証実験、製品試作・改良など）
  - ◇有効利用の推進に関する新たな仕組みづくり（販路開拓、マーケティング調査など）
- 侵略的外来水生植物
  - ◇繁茂抑制や、除去、処分に関する新たな技術開発（実証実験、製品試作・改良など）

**事業対象者（実施主体）**  
 企業、大学、NPO 団体等の法人格を有する団体

**補助率**  
 補助対象経費の 1/2 以内（上限 500 万 下限 50 万）

**応募期間**  
 平成 29 年 4 月 17 日(月)から 6 月 2 日(金)

**その他**

- ・事業採択は、審査会で決定します。
- ・技術開発の期間は、7 月上旬～2 月末までを予定しています。



南湖での水草繁茂状況



オオハマミズキンバイの繁茂状況

---

**事業イメージ**



大量繁茂



刈取り、除去



運搬

有効利用(たい肥化)



たい肥の無料配布



生育面積拡大



除去



新たな処分技術



繁茂抑制



新たな除去技術



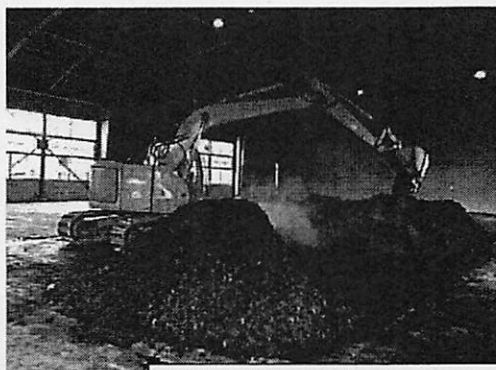
新たな有効利用技術



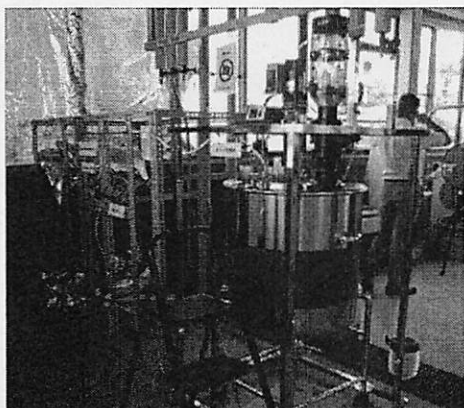
新たな有効利用の仕組み

平成 28 年度実績

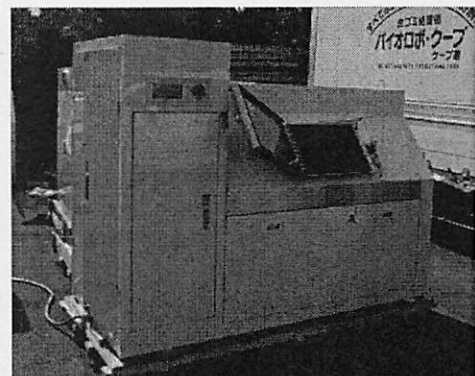
採択 団体名	事業概要	補助金 (千円)	成果
株式会社 明豊建設	嫌気性発酵による堆肥化工法 (KS 工法) を活用することで、水草を 3 ヶ月程度の短期間で堆肥化する実証試験等を行う。	2,500	KS 工法による水草堆肥は、堆肥 (有機利用) としての効果を有することが確認された。 今後は更なる効率的な手法とともに、堆肥を流通 (販売) させる仕組みづくりを検討する。(果樹栽培会社から購入検討の打診あり)
滋賀県 立大学	水草を「メタン発酵」によって処理し、その処理過程で生産される発酵残渣 (消化液) の利活用に関する新技術開発を行う。また、将来的に事業化する際の採算性についても検討する。	1,500	発酵残渣 (消化液) の「液肥」および「クロレラ培養」への利活用については、消化液に不足する成分 (Mg, K) を補うことで事業化の可能性を見出すことができた。 今後は、実証試験を行いながら、立地場所などの検討を行う。
株式会社 リ・クー ブ	水草を「クーブ菌」によって処理し、24 時間での堆肥化を目指す。また、1 度に堆肥化できる量を増やすことで、実用化の仕組みづくりを検討する。	1,000	大型処理機を用いて 24 時間で 100kg の水草を処理、堆肥化することができた。 今後は、堆肥として使用できる仕組みが必要となる。



嫌気性発酵 (KS 工法) による堆肥化【明豊建設】



水草メタン発酵処理機【県立大】



クーブ菌による堆肥化機械【リ・クーブ】